



## 月岡古墳～超重要古墳の被葬者像に迫る～

●問合せ 生涯学習課文化財保護係 ☎75-3343

今月は古墳大国うきは市でもトップクラスの規模を誇る前方後円墳、吉井町若宮所在の月岡古墳について紹介したいと思います。前回の耳納風土記（2月1日号）で「景行天皇とうきは」と題して、「うきは」の地名の由来について考えましたが、今度は「いくは」の地名の由来を解く鍵が、今回紹介する月岡古墳にあります。というのも、月岡古墳の被葬者が「<sup>いくはのおみ</sup>的臣」という豪族だった可能性が指摘されているのです。

的臣についてお話しする前にまずは、月岡古墳そのものについて説明していきます。月岡古墳は、うきは市を代表する中期古墳で、学術的にも非常に重要な古墳として全国的に知られています。そもそも月岡古墳は日岡古墳・塚堂古墳とともに若宮古墳群を構成する古墳で、若宮古墳群では最も古い5世紀中頃に造られた古墳です。全長95mの前方後円墳で、3重の周濠を持つ大規模な古墳です。江戸時代後期の文化2年（1805年）に若宮八幡宮宮司の安元大炊<sup>おおい</sup>によって発掘調査が実施され、出土品について詳細な記録が残されています。記録によると大規模な<sup>なが</sup>縦穴式石室に<sup>もちがたせっかん</sup>持形石棺を納めるという、畿内に多いタイプの石室構造です。現在は石棺のみが現地に残

されていますが、石棺からは8つの冑・鎧・<sup>すねあて</sup>臈当・馬具など莫大な数の副葬品が発見されました。これほど武具一式が揃って出土している古墳は珍しく、大変貴重なため、これら出土品は一括して昭和36年に国の重要文化財に指定されました。このような石室構造や特徴的な出土品から、月岡古墳に葬られた人物は、当時政治の中心地であった畿内と密接なつながりを持つ王族や有力豪族クラスの人物と推定されます。また現在、古墳後円部には社が建てられており、発見された石棺がほぼ元位置の状態<sup>なま</sup>で保管されています。

以上、月岡古墳の概要と現状について見てきましたが、ここからは実際に、月岡古墳の被葬者について考えていきたいと思っています。先ほども述べたように、古墳の規模もさることながら副葬された大量の武器・武具類や埋葬施設からは被葬者の権力の大きさを推し量ることができます。月岡古墳からは<sup>こんどうそうまび</sup>金銅装眉<sup>さしつきかぶと</sup>庇付鉄冑を含む合計8セットもの甲冑に、<sup>てつくさずり</sup>金銅装臈当や鉄草摺などの付属具を含め極めて豊富な甲冑が出土しています。



金銅装眉庇付鉄冑



月岡古墳空撮（左が後円部で右が前方部）

これはなんと、ヤマト王権中枢とその周辺以外で5セット以上の甲冑を副葬する唯一の例であり、8セットという数は黒姫山古墳（前方後円墳・全長120m）の24セット、野中古墳（方墳・全長28m）の11セットに次ぐ量です。

ちなみに両古墳はヤマト王権の中枢に近い大阪にあります。甲冑が大量に副葬されていることから甲冑の集中管理体制の在地化を伺わせるとともに、被葬者の武人的性格が浮かんできます。

次に月岡古墳長持形石棺について。古墳時代中期には畿内を中心に長持形石棺が高位ランクの石棺として流行します。大王やその親族クラス、地方の最高権力者クラスの埋葬施設であり、王権との繋がりが極めて深いことを示します。九州では長持型石棺はほとんど例が見られません。

これらのことから、当時のヤマト王権は、現在のうきは市域を地理的に重要視し、有力豪族に支配させていた可能性が高いのです。なぜ、この土地だったのか？それは、当時朝鮮半島と活発に交流を行う中で、地理的に都合が良かったのだと考えられます。朝鮮への玄関口である福岡にありながら、博多湾から直進して筑紫平野の最奥部という立地は、有事の際にも対応できます。また朝鮮だけで無

く、周辺地域の支配の面でも非常に好立地なのが分かります。つまり、月岡古墳の被葬者は朝鮮半島との武力を含む交渉の中で、指導者的なポジションを任されていた人物だったと推測できるのです。そう考えていくと、有力な氏族の候補としての臣が浮かんできます。的臣について記紀によると、武内宿禰の子孫とされています。武内宿禰は蘇我氏や葛城氏など有力豪族の祖となった人物とされています。的臣は王権内では軍事を司り、5世紀には朝鮮半島外交に積極的に従事していた氏族と言われています。そしてこの「いくはのおみ」の「いくは」が現在も地名として残っていると考えると辻褃が合うのです。

「いくは」という地名は日本国内に他にも存在していますが、月岡古墳という有力豪族の墓、うきは市域という朝鮮外交を考えたときの立地の良さ等を考慮すると、月岡古墳の被葬者が的臣だったとする説の信憑性は高いのではないのでしょうか？

最後になりましたが、月岡古墳は若宮八幡宮の敷地内にありますので、八幡宮にお参りに行かれたら、古墳まで足をのばしてみてもいいかもしれません。ちなみに、この月岡古墳から出土した膨大な出土品は、現在吉井歴史民俗資料館で展示公開していますので、こちらもぜひご覧ください。



長持型石棺



筑後将士軍談に描かれた月岡古墳